令和４年度（2022 年度）
グローカル感染症研究センター共同研究　公募要項

大分大学グローカル感染症研究センター

大分大学グローカル感染症研究センターは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大など、地球規模での感染症対策が喫緊の課題となる中、国境・県境を越えたグローカル（グローバル/ローカル）な感染症に対峙できる研究活動と医療人材育成を行う拠点として国内外の大学、研究機関、国際機関と連携した教育研究活動を推進しています。

本センターでは、ウイルスや細菌などの病原微生物による感染病態の解析やゲノム解析、マイクロバイオーム研究、さらに本学の強みである創薬（予防・治療薬開発）も含めた基礎研究から臨床までの一連の領域をシームレスに連携させることにより、感染症に関する研究プラットフォームの構築を目指しています。

この度、本センターの共同研究事業として、以下の要領で公募します。

１．公募概要

（１）募集区分

A）共同研究課題及び B）シーズ発掘課題の２つの区分で募集を行います。いずれも、本学が有する有形・無形の資産を活用して各区分で定めるテーマに沿った研究課題を申請者（代表研究者）が設定し、研究代表者及び研究分担者が本センター担当教員と協力して実施する共同研究を募集します。

A)共同研究課題

別紙１に掲げる本センターの研究テーマについて、センターの教員と協力して実施するもの。特に、国際的・学術的に重要な研究領域で、本センターが戦略的に実施するものについては、重点的に支援します。

（※令和３年度に採択した課題は、共同研究課題の区分となります。）

B）シーズ発掘課題

感染症に関する研究の裾野を広げ、共同研究を促進し、研究ネットワークの拡大を図るために、センター教員と連携し、新たな着想に基づく研究課題を実施するもの。

テーマについては各教員と相談し、決定してください。

（２）申請資格者

国内外の大学教員、その他研究機関に所属する研究者、これらと同等の研究能力を有すると認める者で、各研究課題に関する研究及び関連領域の研究に従事している者とします。特に若手研究者、女性研究者及び外国人研究者の参画を奨励します。なお、大学院生は代表者として応募することはできませんが、研究分担者として研究に参加することは可能です。また、学部生の研究参加については別途ご相談ください。

（3）研究期間

令和 4 年（2022 年） 7 月 1 日（予定）以降から 1 ～ 3 年度の間（継続課題の場合には、前年度の実施期間を含む)。

注）研究期間が複数年の場合であっても、毎年度、採否及び採択額を審議・決定しますので、採択年度以降も継続課題として再度申請書の提出が必要となります。

（4）配分額

A)共同研究課題　　一課題当たり上限 100 万円／年

本センター共同研究委員会において、課題の性質や個々の計画への適切な配分額について審査し、採択額を決定する。

配分額への加算について

各応募課題の研究代表者が以下のいずれかに該当する場合には、1 課題あたり上限 50 万円の範囲で加算する。応募状況と審査結果を踏まえ、加算の決定を行う。

・海外機関に所属する場合

・若手研究者（研究開始年度の 4 月 1 日現在において 39 歳以下）の場合

・女性研究者の場合

B)シーズ研究課題　一課題当たり上限 30 万円／年

※応募状況及び審査結果を踏まえ、配分額を決定する。

申請対象となる経費の費目については「旅費」及び「研究費」となります。**採択された研究代表者への予算配分は行わず、本センターにおいてすべての経理を行います。**詳細については、別紙 2「大分大学グローカル感染症研究センター共同研究費の取扱について」を御確認ください。

2．応募方法

（1）申請方法

本センター担当教員と研究課題、研究計画、必要経費、来学予定期間等について事前に充分に連携をとった上で、共同研究課題申請書（様式 1）1 部を提出してください。

研究分担者にも事前に承諾を得ていただくことが必要です。

提出にあたっては、ＰＤＦファイルに変換したものを添付の上、メールにて以下の担当まで送付ください。（**※全体として４ページに収まるように作成願います。**）

担当より受領確認を差し上げますので、返信を御確認ください。

【申請書提出・問合せ先】
大分大学グローカル感染症研究センター
〒879-5593　大分県由布市挾間町医大ケ丘 1 丁目 1 番地
E-mail: glocal@oita-u.ac.jp
Tel: 097-586-5444
当センターホームページ：https://www.oita-glocal.jp/

（2）申請書提出期限

令和 4 年（2022 年）5 月 31 日（火）17：00 必着　期限厳守

（3）採否

本センター共同研究委員会の議を経て、センター長が採否を決定し、申請者へ通知します。なお、審査の結果、採択額が申請額より減額となる場合があります。

採択された研究課題については、原則として、研究代表者の氏名と所属、研究課題名、研究成果など、本センターのホームページや年報などで公開します。

3．採択後の研究代表者の責務等

（1）研究成果報告

研究代表者は、各年度の研究期間終了後 30 日以内に「共同研究成果報告書」（様式 2）を、提出してください。なお、本共同研究による成果は、評価のために成果報告会で発表していただく場合があります。

（2）本研究による成果の公表

本共同研究による成果は原則として、本学担当教員との共著での学術論文掲載や学会発表（プロシーディングが有るもの）を行っていただきます。その際は、必ず本共同研究による旨を明記してください。また、必ず謝辞に下記の記載を行ってください。

【和文】　例 1. 本研究（の一部）は大分大学グローカル感染症研究センターを利用して行った。(#####)

例 2. 本研究（の一部）は大分大学グローカル感染症研究センターの支援により行った。(#####)

【英文】　例 1. This work was (partly) conducted by the joint research program of the Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases、 Oita University (#####)

例 2.This work was (partly) supported by the Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases、 Oita University(#####)

注）#には採択通知による課題番号を記入してください。

なお、成果についてはメール等でご連絡いただくとともに、あわせて発表論文の別刷り１部または PDF を提出してください。

また、提出された成果については、センター発行の年報、ホームページ等に掲載するほか、マスメディア等での広報を行う場合があります。広報に当たっては、事前に情報公開の可否について照会した上で調整いたします。

（３）知的財産の取扱いについて

本共同研究によって知的財産を創出した場合は、出願等を行う前に本センター共同研究教員及び研究分担者へ連絡してください。併せて、所属機関の知財担当部署へ連絡してください。権利の持ち分、出願手続き等については、協議の上決定します。

４．その他

（１）情報開示

受理した申請書は、外部から情報開示を求められた場合、個人の特定が可能な情報を除き、開示することがあります。研究遂行上、開示されたくない箇所（独創性を含む記載等）はアンダーライン等でマークして、申請書の余白にその旨記してください。開示時に考慮します。

（２）個人情報等

本募集に関して取得した個人情報等については、国立大学法人大分大学の個人情報保護ポリシー等に準拠し、その保護に努めます。プライバシーポリシーの内容は、大分大学のウェブページ（https://www.oita-u.ac.jp/13joho/kojin-policy.html）をご覧ください。

本センター教員の研究分野・研究活動等と連絡先

教員氏名	研究分野、研究活動等
西園　晃 電話 097-586-5712 メール a24zono@oita-u.ac.jp	研究分野：ウイルス学、感染免疫学、渡航医学 研究テーマ：新興・再興ウイルス感染　特に狂犬病に関する総合的研究 １）狂犬病ウイルス、重症熱性血小板減少症候群ウイルス（SFTSV）など、ヒトと動物共通の新興・再興感染症ウイルスを中心とした診断法、ワクチン、治療法の開発や流行地域での疫学調査を実施している。野外株狂犬病ウイルスを用いた感染実験を行える国内ほぼ唯一の施設であり、特に中枢神経系における病原性発現機構の解析、感染時の宿主免疫応答に関する研究を実施している。 ２）海外渡航医療に関する研究や新型コロナウイルス（COVID-19）の血清疫学調査を主とする臨床的研究も実施している。
山岡　吉生 電話 097-586-5742 メール yyamaoka@oita-u.ac.jp	研究分野：消化管感染症、分子疫学 研究テーマ：ピロリ菌感染症 ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）などの病原性細菌には、よく知られた病原因子や薬剤耐性因子が存在しているが、未だ判明していない病原因子や薬剤耐性因子も存在している。これらを解明するためには、次世代シーケンサーを用いた全ゲノム解析が必要で、本学では、バクテリアゲノムワイド関連解析（GWAS)、さらには遺伝子欠損株作出などによる機能解析を行っている。
太田　正之 電話 097-586-5401 メール ohta@oita-u.ac.jp	研究分野：肥満外科、門脈圧亢進症、肝胆膵外科、渡航医学 研究テーマ：肥満外科手術と腸内細菌・短鎖脂肪酸の変化 １）我が国でも広く行われている減量・代謝改善手術後の減量効果や代謝改善効果と腸内細菌叢や短鎖脂肪酸代謝の変化については明らかになっていない。臨床的研究や基礎的研究により本テーマを明らかにする研究を実施している。 ２）我が国には 250 万人以上の在住外国人が暮らしており、日本語で多くはコミュニケーションをとっている。しかし病院受診時には理解に苦しむ場面に遭遇している。受診受付などの窓口業務などで「やさしい日本語」やツールを導入し、その効果を検証している。

三室　仁美 三好　智博 電話 097-586-5630 メール mimuro@oita-u.ac.jp（三室） miyoshit@oita-u.ac.jp（三好）	研究分野：細菌感染生物学 研究テーマ：粘膜感染病原細菌の感染機構解明 ピロリ菌や腸管病原性大腸菌などの消化管感染病原細菌に関し、感染から発症までの間に菌体因子と相互作用する宿主細胞群や宿主因子群の全容の解明に取り組んでいる。動物感染モデルとシングルセル解析設備、ゲノム解析を利用した、病原細菌感染の病態制御に関わる細胞群や ncRNA、 タンパク質、 糖鎖、 脂質等因子群の同定、および検査法・治療法開発を実施している。さらに、消化管粘膜感染病原細菌の薬剤耐性菌対策に関連研究、Viable but not culturable (VBNC) に関する研究、 病原細菌の感染成立における常在細菌叢の役割を解明する研究を実施している。
平松　和史 電話 097-586-5406 メール hiramats@oita-u.ac.jp	研究分野：感染症内科学、感染制御学、呼吸器感染症内科学 研究テーマ：緑膿菌感染症、薬剤耐性菌感染症 多剤耐性緑膿菌やカルバペネム耐性腸内細菌科細菌、バンコマイシン耐性腸球菌など各種薬剤耐性菌の耐性機序や病院内での伝播経路や環境、動物などでの耐性菌の広がりを研究している。
上村　尚人 電話 097-586-5952 メール uemura@oita-u.ac.jp	研究分野：臨床薬理学および薬物治療薬、臨床薬効評価、早期臨床開発 研究テーマ：感染症を含む難治性疾患の新規治療薬、ワクチンの研究開発 １）新興・再興感染症、特に新型コロナウイルスやインフルエンザを含む病原性 RNA ウイルスに対して有効な抗ウイルス薬の非臨床・臨床開発研究を実施している。 ２）狂犬病をはじめとした、顧みられない熱帯病（neglected tropical diseases: NTDs）治療薬の非臨床・臨床開発研究を実施している。

緒方　正男 電話 097-586-6275 メール mogata@oita-u.ac.jp	研究分野：血液内科学，造血幹細胞移植，ウイルス感染症 研究テーマ：免疫不全患者におけるウイルス感染症の解明とその制御法の確立 同種造血幹細胞移植後などの免疫不全患者は多種多様なウイルス感染症をきたす。特に稀なウイルス感染症の早期診断は困難であり，治療薬の選択も限られている。免疫不全患者における種々のウイルス感染症やトキソプラズマ感染症の診断や治療法に関する臨床的検討を行っており，特にヒトヘルペスウイルス 6B による脳炎の病態と臨床像の解明、および治療・予防法の確立に繋がる研究を実施している。
小林　隆志 電話 097-586-5700 メール kansen@oita-u.ac.jp	研究分野：免疫学、シグナル伝達、寄生虫学 研究テーマ：炎症の免疫制御機構、アルボウイルス、寄生虫に対する免疫応答 蚊媒介性ウイルス、Citorobacter rodentium、寄生虫を中心とした病原性微生物への感染により誘導される宿主免疫応答に焦点を当て、疾患が引き起こされる発生機序の解明に取り組んでいる。加えて、病原性を規定する微生物側の因子の同定を試みることで、微生物の感染から病態発症に至る機序の包括的な解明を行うこと、遺伝子組み換えマウスを用いて生体レベルで解明を行う研究を実施している。
一二三　恵美 電話 097-554-6003 メール e-hifumi@oita-u.ac.jp	研究分野：生命科学、 生物工学、抗体工学 研究テーマ：新規医薬品開発を目指した抗体酵素研究 近年の分子標的薬、中でも抗体医薬品の発展は目覚ましい。将来、抗体が酵素作用をもって抗原を分解できればさらなる高付加価値が生まれる。最近、抗体の超可変領域内に、ある変異を導入する事で抗体に酵素作用を持たせる新手法を見出した。この手法をベースにして、インフルエンザウイルスや新型コロナウイルスの保存領域を標的として、感染能を消失させる抗体酵素の作製を進めている。これにより、ウイルスに変異が生じても適切に対応出来る新型医薬・予防薬の開発を行うと共に、本手法の更なる技術展開を図る。

伊波　英克 電話 097-586-5712 メール hiha@oita-u.ac.jp	研究分野：分子腫瘍学・免疫生物学 研究テーマ：1)成人 T 細胞白血病(ATL)の新規診療技術の開発. 2)免疫応答制御因子 TAX1BP1 の機能解明. 3)HTLV-1/STLV の分子疫学調査.　1)ヒトレトロウイルス(HTLV-1)感染で発症する難治性血液腫瘍 ATL の診療効果を改善する新規バイオマーカーと分子標的薬を活用した診療技術開発. 2)免疫制御因子 TAX1BP1 の欠損マウスを用いた多様な生命現象への影響を解析. 3)ヒト(HTLV-1)/霊長類(STLV)レトロウイルス両者の地理的分布状況の精査. 特に東南アジアとオーストラリアに限局する HTLV-1-C 亜種と類縁 STLV の疫学調査.
小宮　幸作 電話 097-586-5804 メール komiyakh1@oita-u.ac.jp	研究分野：呼吸器内科、呼吸器感染症 研究テーマ：抗酸菌感染症、抗菌薬適正使用 １）世界的にも肺結核に罹患する世代に変化がみられており、それらを鑑みた肺結核の病態、さらには新たな診断および治療に関する研究を実施している。 ２）非結核性抗酸菌症は近年増加傾向にあり、希少菌を含め感染拡大に関する機序は明らかにされていない。さらには、従来ヒトーヒト感染はしないとされていたものも、その可能性を示す報告が散見されている。非結核性抗酸菌感染における病態解明に関連する研究を実施している。

（別紙１）

A)共同研究課題募集テーマ

研究分野	区分	担当教員
インバウンド・アウトバウンド医学研究分野	医療コミュニケーションツールの導入と検証に関する研究	太田　正之
	渡航ワクチン関する臨床研究	西園　晃
	狂犬病など顧みられない熱帯病（NTD s）の診断法、ワクチン、治療法の開発や流行地域での疫学調査に関する研究	西園　晃

研究分野	区分	担当教員
ワンヘルス研究分野	診断法、ワクチン、治療法の開発や流行地域での疫学調査に関する研究	西園　晃

研究分野	区分	担当教員
感染症病態研究分野	遺伝子組み換えマウス、ライトシート蛍光顕微鏡など高機能顕微鏡を用いた宿主の生体防御機構に関する研究(感染性大腸炎、寄生虫感染)	小林　隆志
	HHV-6 感染メカニズムの解明に関する研究	緒方　正男
	免疫制御転写因子、活性調整因子に関する研究	伊波　英克
	ATL 発症機序、新規治療法開発に関する研究	
	人類進化学的視点によるヒト・霊長類レトロウイルスの分布調査	
	顧みられない熱帯病（NTDs）の予防・治療薬の開発に関する研究	上村　尚人
	外科手術に係る腸内細菌叢に関する研究	太田　正之
	抗菌・抗ウイルス作用を有する抗体酵素の開発及びその分子機構の解明に関する研究	一二三　恵美
	神経向性ウイルス、特に狂犬病ウイルスに関する研究	西園　晃
	病原性発現機構の解析、感染時の宿主免疫応答、病原性因子に関する研究 （狂犬病、蚊媒介性ウイルス）	西園　晃 小林　隆志

	免疫不全状態において発症する様々なウイルス感染症の病態、臨床像、疫学、治療法に関する研究	緒方　正男
	ピロリ菌、赤痢菌消化管粘膜病原細菌感染に関する研究	三室　仁美 三好　智博
	薬剤耐性菌に関する研究	山岡　吉生 三室　仁美 平松　和史 三好　智博
	肺結核及び非結核性抗酸菌症の病態、診断、治療に関する研究	小宮　幸作
	予防・治療薬の開発研究、ウイルス感染症治療薬の非臨床・臨床開発研究	上村　尚人

研究分野	区分	担当教員
ゲノムワイド感染症研究分野	ピロリ菌ゲノム解析に関する研究	山岡　吉生
	消化管細菌叢に関する研究	山岡　吉生
	消化管粘膜病原細菌感染、VBNC に関する研究	三室　仁美 三好　智博

＜主要な設備＞

ライトシート蛍光顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡、デジタルＰＣＲ、次世代シーケンサー（Long Read、Short Read)、シングルセル解析装置（10x Genomics 社　Chromium iX)、全自動泳動装置（ＰＯＴ法)、生体分子間相互作用解析システム

＜主に取り扱いができる病原体＞

細　　菌：ピロリ菌、赤痢菌、(結核菌)

ウイルス：狂犬病ウイルス、蚊媒介ウイルス（デングウイルス、ジカウイルス、チクングニアウイルス)

（別紙 2）

大分大学グローカル感染症研究センター共同研究費の取扱について

１．所要経費の取扱

（１）本共同研究費は、本センターまでの旅費や、当該研究課題に使用される消耗品の購入等に充てる費用となります。

（２）共同研究に必要な経費は、予算の範囲内において本センターから支出します。

（３）新型コロナウイルス感染症の流行や自然災害等のやむを得ない状況により本センターへの旅行が困難な場合は、Web 会議にて研究打合せ等を行うことを認め、この際に必要となる Web カメラ等の周辺機器を本経費の予算内で購入することを可能とします。

２．支出できる範囲

■旅費

（１）　旅費については、国立大学法人大分大学旅費規程に基づき算出し、精算払（銀行振込）を原則とします。

（２）　交通費については、研究代表者及び研究分担者の勤務先所在地（または居住地のいずれか近いほう）から本センター間の移動について支給対象となります。

（３）　宿泊費、日当については、規程に基づき定額を支給します。

（４）　研究代表者、研究分担者以外の旅費は支出することはできません。

（５）　共同研究推進のため、1 回以上は共同研究を目的とした本センターへの出張を計画してください。ただし、「１．所要経費の取扱（３）」に該当する場合はこの限りではありません。

■研究費

（１）消耗品

消耗品とは共同研究に使用するもので、単価 10 万円未満の物品が該当します。また、単価 10 万円以上の物品であっても、およそ 1 年以内に消耗する物品（試薬等）についても該当します。ただし、以下の(a)～(d)に掲げるものは除きます。

(a)　各所属機関で整備すべき設備・備品（事務机、椅子、本棚、実験台等）

(b)　汎用的な事務機器（パソコン、プリンタ等）

(c)　金券、タブレット端末、デジタルカメラ等の換金性の高い物品

(d)　書籍

（２）印刷費

共同研究によるサポートを受けた旨を明記したものに限り、別刷代・投稿料も可能です。（年度内に納品できるものに限ります）

（３）雑役務費

英文校正費用、郵送料が対象となります。

3. 検収権限の委託について

本共同研究費で購入した物品等を、申請者所属機関に直接納品するために、本学の規程に定める検収権限の委託の手続きが必要となります。（※別紙 4（執行手続きの流れ）をご確認ください。検収権限の委託に関して、本学の経理担当者から手続きに関するご連絡をさせていただきますので、（別紙３）により貴機関の検収ご担当部局をお知らせくださるようお願いします。）

なお、貴機関の検収体制確認の結果、検収権限の委託ができない場合は、その旨ご連絡いたします

採択後、速やかな経費執行を行うため、申請者所属機関の検収体制について事前のご確認をお願いいたします。

4. 研究費執行の流れ

本共同研究経費については、申請者所属機関への予算配分（配分先機関で予算執行すること）を想定していません。そのため、以下の流れで執行していただくこととなります。

※別紙 4（執行手続きの流れ）も併せてご確認ください。

例）消耗品の購入

1．購入予定物品の見積書をグローカル感染症研究センターへお送りください。
（送付先メールアドレス：glocal@oita-u.ac.jp）

2．本学経理担当部局から業者へ発注を行います。

3．指定の場所へ納品があったら、各機関で定める手続きに沿って、検収をお願いします。なお、各機関での検収にあたっては、あらかじめ手続き（検収権限の委託）を経ておく必要があります。

4．研究者または納入業者からグローカル感染症研究センターへ見積書・納品書・請求書の原本を郵送にてお送りください。

5．本学から納入業者へ支払いを行います（納入月の翌月払）

（別紙 3）

検収権限委託に係る連絡票

経費執行者（貴機関の共同研究代表者）

所属：

氏名：

検収担当部局

機　　関　　名	
担 当 部 局 名	
担　当　者　名	
住　　所	
電　話　番　号	
メールアドレス	

※検収権限の委託に関して、本学の経理担当者から手続きに関する連絡をいたします。

検収マニュアルの有無

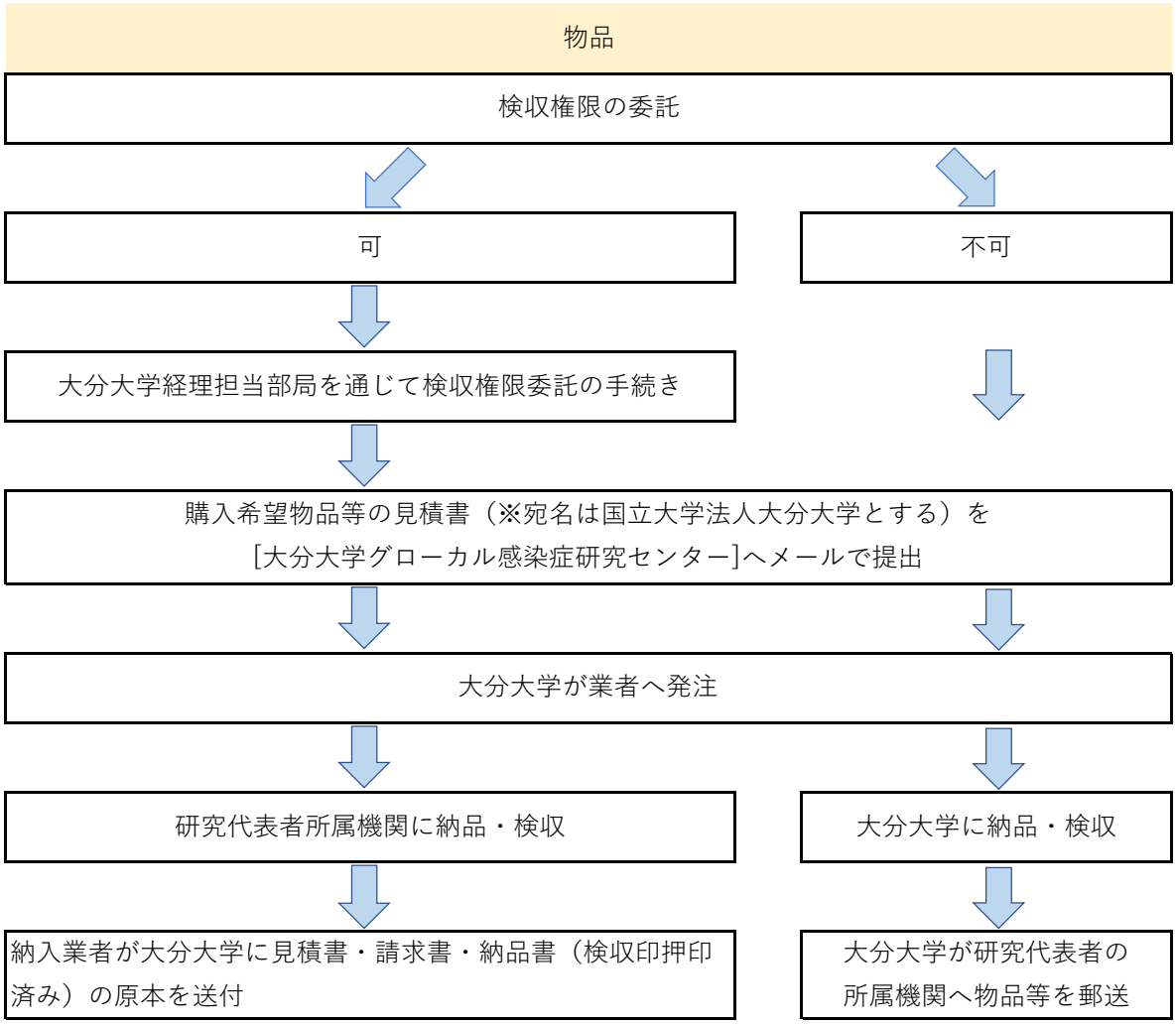
□あり（※マニュアル等を添付願います。）

□なし

【本件連絡先】
大分大学　グローカル感染症研究センター
担当：中島
〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ケ丘 1 丁目 1 番地
TEL：097(586)5409 ／ E-mail：glocal@oita-u.ac.jp

（別紙4）

【グローカル感染症研究センター共同研究費　執行手続きの流れ】



【メール送付先アドレス：glocal@oita-u.ac.jp】

【グローカル感染症研究センター共同研究費　執行手続きの流れ】

旅費

旅程を[大分大学グローカル感染症研究センター]へメールで連絡

↓

大分大学で旅行依頼を作成

↓

研究代表者等が出張

↓

出張完了後、出張者は報告書に必要な書類をグローカル感染症研究センターへ郵送

↓

大分大学から出張者に旅費を支払い（口座振込）

【メール送付先アドレス：glocal@oita-u.ac.jp】

【ご出張前】
①当該ご出張に係る旅程（下記情報）をお知らせください。
　出張者氏名：
　用務：「　　共同研究課題名　　」に関する研究打ち合わせ
　打ち合わせ先：大分大学医学部／本センター　〇〇講座　〇〇〇〇先生
　打ち合わせ日時：　　年　月　日（※時間もお知らせください。）
　旅行期間：　　年　月　日～　　年　月　日
　宿泊先：（※決まり次第お知らせください。）
　備考：（※移動手段、特記事項等をお知らせください。）

②「口座振込依頼書」に記載・押印いただき、預金通帳の写し(口座名義、及び口座番号の記載ページ)と併せて、事前にPDFファイルにて送付ください。本紙は、ご出張の際にお持ちいただければ結構です。

【当日】
③旅費精算のため、下記書類等をご提出ください。
〇航空機利用の場合(パック旅行を含む)、航空機に搭乗したことが証明できるもの
（搭乗券、半券、保安検査場通過の際に発行されるレシート状のもの、航空会社が発行する搭乗証明書のいずれか1つ。ただし、モバイル搭乗券は無効）
〇領収書または支払を証明する資料
※宿泊費・日当については、本学規定に基づき定額を支給するため、宿泊に係る領収書は不要です。
〇口座振込依頼書（本紙）

④旅行依頼書に、ご印鑑またはサインをお願いいたします。

【ご出張後】（※航空機利用の場合のみ）
⑤復路に係る「航空機に搭乗したことが証明できるもの」について、ご郵送願います。

⑥本センターでは，学外の方の出張に関して報告書の内容を確認していただくようにしております。本学にて旅行報告書を作成し、メールにて送付しますので、内容に相違がないかご確認をお願いいたします。

（様式 1）

令和 4 年度（2022 年度）大分大学グローカル感染症研究センター
共同研究課題　申請書

A)共同研究課題	新規・継続　　採択番号：
B)シーズ発掘課題	新規

※該当枠に〇付けてください。（継続の場合は採択番号を記載ください。）

大分大学グローカル感染症研究センター長　殿

令和　年（西暦　　年）　　月　　日

（ふりがな） 申請者（代表者）	
年齢・性別	年齢　　歳（令和 4 年 4 月 1 日現在満年齢）　性別：　男　・　女　・非回答
所属機関名	
職名	
連絡先住所	〒
電話・FAX	電話：　　FAX：
E-mail	
本センター 担当教員	氏名：
	研究分野：
	区分：

１．研究課題	（和文）			
	（英文）			
２．研究期間	令和　　年（西暦　　年）　　月　　日～令和　　年（西暦　　年）　　月　　日			
３．研究組織				
（ふりがな） 研究者氏名	年齢(R4.4.1 現在) 性別	所属・職名	研究分担（役割分担を記入してください。） ※参画者全員を記入してください。	連絡先 （TEL・E-mail）
（研究分担者）	（　　歳） 男・女・非回答			
	（　　歳） 男・女・非回答			
	（　　歳） 男・女・非回答			
	（　　歳） 男・女・非回答			

本センター教員 氏名	分野等名・職名	研究分担（役割分担を記入してください。）

４．研究概要（当該研究を遂行するために必要な経費全体に対して本共同研究費の占める割合等がわかるように記載願います。）

５．研究目的（研究の学術的背景、明らかにしようとする点、研究の意義等について、具体的に記載してください。）

６．研究経過（当該研究の進捗状況を記載(新規申請含む)願います。）

７．研究内容（当該研究と本センターとの関係性を明記してください。※継続課題の場合は、次年度以降の計画の概要も記載願います。）
８．期待される効果（継続課題の場合は、これまでの研究成果も含めて記載願います。）
９．研究業績（本研究に関連する最近３年間の主要な研究論文：論文名、著者名、掲載誌名、巻、頁、発表年（西暦）について記入願います。また、昨年度からの継続内容で申請する場合は、これまでの実績を簡潔にまとめ、それをどのように展開していくか記入願います。）
１０．本研究に関連した研究資金の状況（資金（事業）名、交付元機関名、金額、研究期間等（申請中も含む））（特に A）共同研究課題に関しては、全体の計画の一部を本研究費で実施する場合には必ず補完する研究費の出処を明記してください。）

所要経費 令和 4 年度 (2022 年度)	旅　費	千円	(内訳)
	研究費	千円	(内訳)
	合　　計	千円	

※申請額の上限は、A) 共同研究課題は 100 万円まで、B) シーズ発掘研究は 30 万円までとします。

※申請書は全体として 4 ページに収まるように作成してください。

（様式 2）

令和 4 年度（2022 年度）大分大学グローカル感染症研究センター
共同研究　成果報告書

国立大学法人大分大学グローカル感染症研究センター長　殿

採択番号：

申請者に関する事項	フリガナ		
	氏　　名	(和)	
		(英)	
	所属機関名	(和)	
		(英)	
	部 局 名	(和)	
		(英)	
	職　　名	(和)	
		(英)	
	所属機関住所	〒	
	申請者連絡先	TEL	E-mail
報告内容の公開制限 ※本報告書に記載の内容について特許出願等の理由により公開時期の希望がある場合に記載してください。			□特に希望無し □＿＿＿＿年＿＿月以降公開可

1．研究課題名			
和 名			
英 名			
2．研究部門		**3．本センター担当教員**	
4．研究期間	年度 ～　　年度：(　年間)		
5．研究分野	番号：　　分野名：		
6．研究経費	交付決定額：　　円		

7. 研究組織（研究分担者）※必要に応じて行を追加してください。上段：和／下段：英

	所属機関・部局・職名
(和)	(和)
(英)	(英)

8. 令和 4 年度（2022 年度）年度研究成果の概要（本共同研究で得られた研究成果の概要やその方法について、具体的に記載してください。本センターの主要な施設・設備を使用した場合は、当該施設等が研究成果にどのように貢献したか等について記載してください。適宜、図表・見出しを配置していただいて構いません。）

（和文：600～800 字を目安に記入）

（英文：200～300word を目安に記入）

9. 本共同研究による研究業績（本共同研究の成果により、研究代表者もしくは研究分担者、指導大学院生等が令和 4 年度（2022 年度）において発表した論文、学会発表（プロシーディングが有るもの）、著書等について、査読付き論文等に限らず幅広く記載してください。ただし、総説は対象に含めますが、学内の紀要に発表された論文・総説は除きます。）※国際共著論文とは、国内の研究機関に所属する者と国外の研究機関に所属する者の共著論文を指します。

〔謝辞に本共同研究の成果である旨の記載がある論文〕
※SCI 論文(JCR(Journal Citation Reports)データベースに収録された学術雑誌に掲載された論文)は赤字、国際共著論文は先頭に○を付してください。

〔上記以外の論文〕※SCI 論文は赤字、国際共著論文は先頭に○を付してください。

〔学会発表〕

〔著　書〕

10. 本共同研究の波及効果（本共同研究による令和 4 年度（2022 年度）の波及効果（外部資金の獲得や学会賞受賞、関連コミュニティ、特許出願等）について記載してください。）

〔外部資金の獲得：資金制度名、研究課題名、機関（省庁・独法等）、金額、期間、代表・分担の別〕

〔学会賞等の受賞〕

〔本共同研究が密接に関係する学会・研究会等名称（※複数回答可）〕

〔特許権等の取得：発明の名称、出願番号・特許番号等〕

１1. 本共同研究が発展したプロジェクト（本共同研究が発展したプロジェクトについて、そのプロジェクト名、財源、期間、簡単な概要を記載してください。）

〔プロジェクト名、財源、期間、簡単な概要〕

12. 本共同研究により本センターを利用して学位を取得した大学院生（本共同研究により本センターの施設・設備、データベース、資料等を利用して令和 4 年度（2022 年度）中に学位を取得した大学院生がいる場合、その氏名等を記載してください。）

〔博士号取得者（氏名、大学・研究科名、国籍）〕

〔修士号取得者（氏名、大学・研究科名、国籍）〕